

## 光る石のかがやきと力とは

3年 1・Sさん

この本を読み終えてまず思ったことは、「石がいろいろな物にすがたを変えていくなんで、不しぎだな。本当なのかな。」というところでした。

私が、この本を読んで心にのこったことは二つあります。

一つ目は、かえで君はお母さんをなくしており、かえで君の気持ちを思うとむねがえぐられるような思いがしたことです。私にはちゃんとお父さんもお母さんもいて幸せにくらしているけれど、もしだれか一人でもいなくなってしまうたら悲しくてたえられません。かえで君にとって言葉を失うほどの悲しみだったんだと思うと、私にはそのような言いけんはないので、きつとそうぞうもつかないような悲しみなのだろうなと思いました。

けれど、読み進めていくうちに、かえで君が話し始めたり、少しずつ変わっていくのがわかります。そのきつかけがひかる石で「どういう力が石にはあるのかな。」と思つつぶつになりました。また、私の気持ちもどんどんよりのした気持ちから、ワクワクとした気持ちに変わっていきましました。

心にのこったことの二つ目は、石がいろいろな物にすがたを変えていくところ  
です。

私はこの部分を読んだ時に、初めは全て石だったのにいろんな命が変わっていき、そして最後に石にもどっていくという命のバトンタッチがすてきななと思いました。これがかもし本当なら、かえで君のお母さんも、石になってかえで君の  
ところにもどってきたのではないかと思いました。

私は初めに題名を見て、「ひかる石ってどんな風に光るのかなあ。」と読んでいました。読み終えた今、それが分かった気がします。私の想ぞつでは、光る石はかえで君の気持ちのつづりかわりのように、虹色にきらきら光っているのではないかと思います。その理由は、化石の森でも虹色のきれいな木があったことや、お母さんのことをお父さんと話すにつれて、今まで知らなかったお母さんの一面を知り、初めは暗かったかえで君の心が、だんだん明るく、元気に変わっていったところが、どしゃぶりの雨の暗い空のあとに、きれいな虹がかかったように思えたからです。

最後に、私もかえで君のように自分の心を虹色にしてくれるような、光る石に出会えたらいいなと思います。